

広告

越智光夫

広島大学長

1952年愛媛県生まれ。77年広島大学医学部卒業。95年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院教授。広島大学病院長を経て、15年広島大学長に就任。膝関節、スポーツ医学を専門とする整形外科医。15年紫綬褒章を受章。19～21年文部科学省科学技術・学術審議会 総合政策特別委員会委員、17～22年日本学術会議会員、11～17年および22年から日本学術会議連携会員、21～23年文部科学省科学技術・学術審議会委員、文部科学省中央教育審議会委員。25年から国立大学協会副会長。

2026年4月16日の講演を終えて

学生の皆さんが講演をとても真剣に聞いてくれて、学ぶ意欲の高さを感じました。講演後、たくさんの質問や感想をもらったのも嬉しかったです。特に印象的だったのは、広島大学の温かい学風です。越智学長と学生の皆さんが気さくに挨拶を交わされている様子を何度も拝見し、日頃から良い関係が築かれているのだと感心しました。

鈴木俊貴

東京大学
先端科学技術研究センター
准教授

1983年東京都生まれ。東邦大学理学部を卒業後、立教大学大学院にて博士（理学）を取得。専門は動物行動学、動物言語学。野鳥のシジュウカラの観察を通じ、鳴き声の中に単語や文法が存在し、会話が行われていることを世界で初めて証明。この世界的な発見により「動物言語学」という新たな学問分野を創設した。京都大学白眉センター特定助教などを経て、2023年に東京大学先端科学技術研究センター准教授に就任し、世界初となる同分野の研究室を立ち上げた。日本動物行動学会賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞、河合隼雄学芸賞など受賞多数。著書に「僕には鳥の言葉がわかる」「動物たちは何をしゃべっているのか?」がある。



広島大学

先人の発見に学び、さらに登る努力を！

鳥のさえずりを「言葉」として捉え、世界で初めて「動物言語学」を提唱した東京大学准教授の鈴木俊貴氏と、広島大学の越智光夫学長による特別対談が行われました。

シジュウカラの鳴き声に隠された、驚くべきコミュニケーションの仕組みから、鈴木准教授の研究の原点、そして現代のAI時代においてこそ問われる「自ら考え探究する力」の重要性まで、さまざまな視点から語り合いました。



鳥たちは「言葉」を学び、文化として受け継ぐ

越智 先生の『僕には鳥の言葉がわかる』という本を偶然手にして、その日のうちに一気に読ませていただきました。先生はシジュウカラの「ジャージャー」や「ヒビヒ」といった鳴き声が言葉であり、意味を持っていることを見いだされたということですね。

鈴木 小鳥たちは生きるために言葉を使っているの、鳴き声の特徴は本当によくできています。例えば「タカが来たぞ」と知らせる「ヒビヒ」は、7～8キロヘルツほどの高い音です。タカには聞こえにくく、周りの小鳥には届く、ちょうど良い音域なのです。シジュウカラのヒナは、親鳥の声を聞き分けて天敵から身を守ります。猫やカラスが迫ると親鳥は「ピーピー」と鳴き、ヒナはうずくまります。ヘビの時は「ジャージャー」と鳴き、ヒナは巣箱を脱出します。

越智 コガラやヤマガナなどもそれを理解しているとかかれていましたが、他の鳥はどこまでシジュウカラの言葉を理解しているのでしょうか。

鈴木 研究を進める中で、かなり分かってきました。例えば、ヘビを見つけた時に出す「ジャージャー」は、シジュウカラ以外の鳥にも「ヘビだ」という情報として伝わっています。一緒に暮らす中で、お互いの鳴き声を観察し、学習しているのです。

越智 学習となると、地域が違えば通じないこともあるのですか。

鈴木 鳴き声には「方言」があるので、違う地域の声を聞かせても反応できないことがあるんです。動物全体で見ても、言葉の後天的に学習できる種類は少ないのですが、シジュウカラはそれが得意です。本能だけでなく、周りで文化的に確立された言語体系を習得していく部分が大きいのです。

越智 では、子どもの段階で海外から連れてきたら、日本のシジュウカラと話せる可能性があるのですね。

鈴木 日本で育てば、日本のシジュウカラ語を話すはずです。ヨーロッパでは、シジュウカラとアオガラを交配して、シジュウカラに育てられたアオガラはシジュウカラ語を話し、シジュウカラに求愛するようになったのです。その逆も同じでした。他の動物の言葉を学び、理解する能力がどこまで普遍的なのか、今後さらに明らかになると思います。



異なる視点で世界を見ること

越智 少し話題を変えて、幼少期のお話を聞かせてください。ご自身を振り返って、どのような子どもだったと思われますか。

鈴木 本日に生き物を観察するのが大好きな子どもでした。どこで何を捕まえた、どこで初めて見た、という記憶ばかり残っています。アルバムを見ると、1歳5カ月の頃にはベビーカーに虫取り網が刺さっていたほどです。両親は特に生き物好きではありませんでしたが、僕の興味に付き、虫取り網や魚取り網を手付けしてくれました。

越智 そのまま興味が続いたのですね。現在のように、鳥へ関心が移ったきっかけは何でしょうか。

鈴木 最初は虫や魚を捕まえて観察するのが好きでしたが、本当に知りたかったのは「彼らはこの世界をどう見ているのか」ということだったんです。人工的な水槽ではなく、厳しい自然で巧みに生きる鳥たちの世界に入ること、その疑問に近づけるのではないかと。彼らが何を考え、何をしゃべっているのかを知りたいと思いました。

越智 それが今の研究につながったのですね。大学は

東邦大学理学部生物学科に進まれましたが、何が基準だったのですか。

鈴木 当時テレビで拝見した長谷川博先生存在です。絶滅の危機にあったアホウドリを救うため、無人島の鳥島に通っていました。最初は50羽ほどだったのが、今では1万羽を超えるまでにしています。人間は生き物を減らすこともできれば、1人の力で救うこともできる。長谷川先生に魅力を感じ、その背中を見たいと思い、進学を決めました。

越智 長谷川先生からはどのような影響を受けましたか。

鈴木 「物事を考える時に一度逆の発想をしてみると、それが正しいことがある」「実験をする前に、結果が分かるくらい観察して理解しない」という教訓が印象的です。本当にそのとおりだと今も思います。

越智 最初の研究はシジュウカラですか。また、予想どおりにいかないことはありましたか。

鈴木 シジュウカラのヒナが、生まれつき違う音に対して適切な行動を示せることが世界で初めて分かり、評価していただけました。もちろん予想どおりにいかないこともありました。それは「まだ知らない情報やメカニズムがある」ということです。予想外の結果こそ、新しい発見につながると思っています。



もう一度選んでも、きっと同じ道へ

越智 広島大学は、国際的な評価が年々高まっています。さまざまな取り組みが注目を集めています。世界的にも高水準にある本学の教育・研究が、学生たちの発見や挑戦を後押しできればと思っています。もし先生がもう一度高校生に戻れるとしたら、今と同じ道を選ばれると思いますか。

鈴木 多分、同じような道を選んで、同じようなことをやっていると思います。研究を続けていると、知りたいことが次々に出てきて、今でも一生ではやりきれないほどのテーマを抱えています。もう一度やり直せるなら、今は別のテーマにも取り組んでみたいですし、できることならシジュウカラになって、彼らが本当にどんなふうに世界を見ているのか確かめてみたいくらいです。

越智 それほど、今の内容が合っておられるのですね。では、大学で研究することの魅力は何だと思われますか。

鈴木 大学では、教科書に載っている知識を学ぶだけでなく、まだ誰も知らないことに向き合い、新たな知識を生み出している人たちに会えます。そこが大学での研究の大きな魅力だと思います。そうした人たちとともに、これまで分かっていなかったことを自分の目で確かめ、一つずつ「分かること」に変えていく。その過程には、大きなワクワクがあります。こうした探究の面白さを一度でも体験できるかどうかで、その後の人生の見方は大きく変わるのではないのでしょうか。

越智 先人の発見から学ぶことを「巨人の肩の上に立つ」といいますが、誰かが積み上げてくれた知識や経験があるからこそ、私たちは遠くを見ることができそうです。ただ、分かっていることを学ぶだけでなく、自分の力で考えて、さらに登ろうと努力をしなければ、その次の景色は見えてきませんね。

鈴木 僕たちはいろいろな面で言葉に頼りすぎているのですが、本質は、自分の体験を通してこそ見えてくるものだと思います。教科書に書いていることも重要ですが、裏を返せば、書いていないことはまだ知られていない、調べられていないのかもしれない。検索中毒にならず、実際に体験し、観察する。こうした体験から、探究の面白さを知ってほしいです。

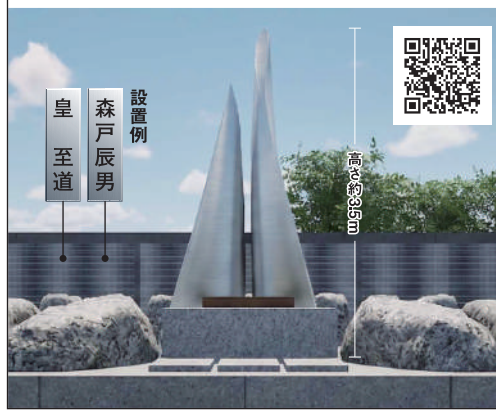
越智 言葉で整理するだけではなく、実際にその世界に身を置いてみることで、初めて見えてくるものがあるということですね。また、私自身の体験でもあるのですが、人との出会いによって、世界が広がり、より豊かな人生になることもあると思います。

鈴木 やはり人と人です。僕も中学・高校時代に生物部に入り、一緒に生き物を観察したり、語り合ったりしてきました。その仲間の中には、今、研究者になっている人もいます。当時はただ好きなことを一緒に楽しんでいたのですが、振り返ると、どこかで互いに支え合いながら進んできたように感じます。仲間との出会い、そして先生との出会いで視野が広がり、新しい道が開けました。皆さんも、そうした出会いを大切にしながら、自分がワクワクできる道を見つけてほしいと思います。

越智 本日は、どうもありがとうございました。

不滅の学灯

100年後も光り輝く大学記念碑を
8月6日、東千田キャンパスに設置
同窓生でご希望の方は、お名前の掲載が可能です。



広島大学オープンキャンパス

2026 OPEN CAMPUS

本気の学びを、
広島大学で



08
05
WED.
07
FRI.

主な企画コンテンツ

- ①学部別プログラム
学部・学科紹介、模擬授業、研究室紹介、個別相談など
- ②全体プログラム
学長基調講演、在学生による大学紹介、大学説明会



東広島キャンパス	霞キャンパス	東千田キャンパス
東広島市鏡山1-3-2	広島市南区霞1-2-3	広島市中区東千田町1-1-89

オープンキャンパスに関する問い合わせ先▶ 高大接続・入学センター E-mail: nyusi-group@office.hiroshima-u.ac.jp

基本理念		○平和を希求する精神		○新たな知の創造		○豊かな人間性を培う教育	
学 部	□総合科学部	□教育学部	□法学部	□理学部	□医学部	□歯学部	□工学部
	総合科学科	第一類（学校教育系）	法学科	数学科	医学科	歯学科	第1類
	国際共創学科	第二類（科学文化教育系）	□経済学部	物理学科	保健学科	□口腔健康科学科	第2類
	□文学部	第三類（言語文化教育系）	経済学科	化学科		□薬学部	第3類
	人文学科	第四類（生涯活動教育系）		生物科学科		薬学科	第4類
		第五類（人間形成基礎系）		地球惑星システム学科		薬科学科	

THE※サステナビリティ・インパクト・レーティング2026

広島大学は ※英国の高等教育専門誌/Times Higher Education (THE)

世界トップ100 世界77位を達成! SDGs 5項目で世界トップ50 SDGs 3項目で国内単独1位!



世界が認めた 広島大学の挑戦

広島大学は、英国THEが発表した「THEサステナビリティ・インパクト・レーティング2026」(旧インパクトランキング)で世界1,603大学中77位、国内30大学中2位にランクインし、総合ランキングで初の世界トップ100入りを果たしました。教育・研究・社会貢献を通じた本学の取り組みが国際的に高く評価されたものであり、この成果は、大学全体で挑戦を積み重ねてきた証です。広島大学は、一人ひとりの学生の未来を育み、平和を通して世界に貢献できる人材の育成に取り組んでまいります。



卒業生の皆へ 広島大学校友会(フェニックスクラブ)へご加入ください。
学生支援事業を行うとともに、校友間のコミュニケーションを促進し、広島大学に關係する全ての個人や団体からなる広島大学コミュニティーの育成と発展を図ることを目的としています。
校友会への問い合わせ 広島大学校友会事務局 TEL:082-424-6015 E-mail: sec@phoenix.hirodai.jp
Webサイト▶ https://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai